

# 積丹町敬老会

～ 508 名の長寿を祝福～

高齢者の方々の長寿と健康を祝う「積丹町敬老会」（鎌田淳史実行委員長）が9月19日、町総合文化センターで華やかに開催されました。

今年の敬老対象者は、**昭和24年9月30日以前に生まれた75歳以上の方々**で、新たに36名が加わりました。町全体で508名となった対象者のうち63名が当日出席しました。

今年88歳の米寿を迎えられた26名のうち、4名の出席者に松井町長から祝品が手渡され、長寿の節目を祝いました。

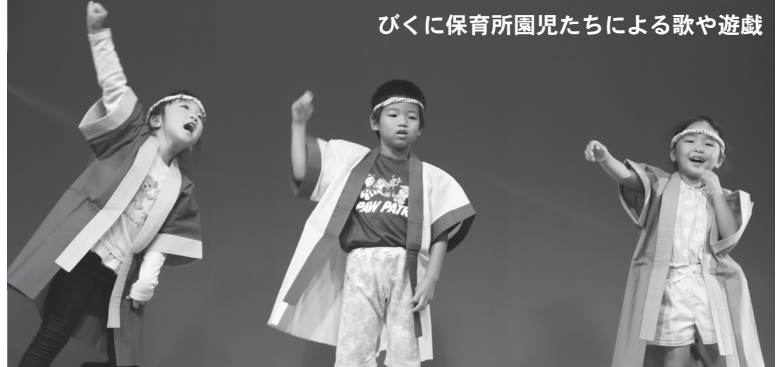
祝宴では、びくに保育所の園児による遊戯、婦人会の方々や敬老者自身による歌や舞踊も披露され、会場は拍手や歓声が響きわたり、友人とのつかの間の歓談と交流を楽しみ、再会を約束していました。

出席者の最長寿者は96歳の成田チセさん（美国町）と久世文子さん（美国町）でした。

皆さんの末永いご長寿とご健康をお祈りします。



びくに保育所園児たちによる歌や遊戯

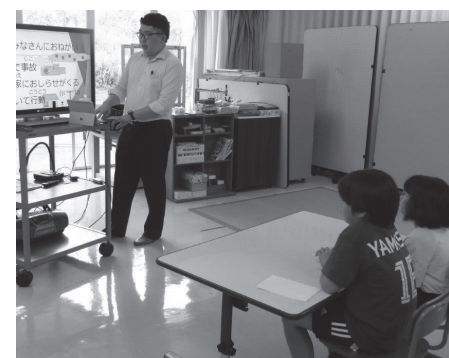


柏崎壽子さん「積丹半島」

三浦智恵子さん「命くれない」



余別自治会では自主防災チームを設置し、日頃から災害に備えた訓練を実践しています。9月2日は、津波被害を想定し、IP告知端末と屋外拡声器からの訓練放送に合わせ、津波避難場所に定められている集落の高台「雙源寺」（旧余別小中学校跡地）に約30名が避難しました。廣和寿幸会長は「今年は、地域内の強い要望もあり余別小学校と合同で行いました。」と話され、校長先生や子どもたちも一緒に避難しています。また町では、自宅でのローリングストック（非常食を買って、賞味期限が近くなったら食べて補充する）の啓発普及のため、賞味期限の近くなった非常食を提供し、参加者へ配布させていただきました。



▲日司の防災教室



▲余別の避難訓練

職員から、原子力災害が発生した際は、泊発電所に近い町村の人から順に町外へ避難し、それ以外の人は屋内退避することなど、原子力災害特有の避難時の注意事項を学びました。

また、同月11日に行われた防災学校では、令和2年に開館した日司みなと防災センターで「避難時」と「避難生活」での注意点を学び、センターの備蓄倉庫の見学では、折り畳みベッドとパターションの組み立て・片付けの実践に取り組みました。

半島地域の防災力を高める！  
余別・日司 自主防災訓練／防災教室